



特定家畜伝染病と病害虫対策 西毛広域幹線道路沿線の開発

堀口 順
(市民クラブ)

質問 本市で外来病害虫のクビアカツヤカミキリが発生したが、農家に対する支援は。また、学校のシンボルであるサクラへの対策は。

答弁 果樹農家に対する支援として、県やJAと連携して全果樹園の被害調査を実施したほか、市独自に薬剤と防虫ネットを配布した。

また、学校に対しては、注意を促すとともに、校内の全ての対象樹木を調査し、被害がないことを確認した。

引き続き、関係機関と連

携し、早期発見と被害の拡大防止に努めていく。

質問 西毛広域幹線の沿線に農畜産物等の販売拠点を整備する考えは。

答弁 現時点では、西毛広域幹線沿線に農畜産物等販売拠点を整備する具体的な計画はないが、群馬地域での条例の一部改正に伴う規制緩和により、民間での物販施設や商業施設等の相談が多く寄せられていることから、開発状況を注視しながら調査・研究していきたい。



高崎市手話言語条例の推進

松本 賢一
(新風会)

質問 本市の福祉計画に示された遠隔手話サービスとはどのような取り組みか。

答弁 聴覚障害者がスマートフォン等を通じて、遠隔の手話通話者と直接コミュニケーションを図るもので、令和3年度から開始する。

この事業は、相互の感染防止の手段として有効である上、聴覚障害者が直接出向

くことがないため、相談等がよりスムーズになる。本市障害福祉課の嘱託職員1人と高崎市社会福祉協議会の担当職員2人で対応する。

質問 総合福祉センターから障害者支援SOSセンター・ばるーんに手話通話者を配置変更するが、概要は。

答弁 既存の相談窓口は平日のみの対応だったが、ば



土曜日に行っている学力アップ大作戦

るーんは火曜日曜日に開業し、休業日の月曜日には障害福祉課での対応が可能なため利用日が大幅に増える。また、ばるーんの業務にお

子どもの学び等の環境の整備

小野 聡子
(公明党)

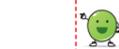
質問 放課後や長期休みの際の子どもの居場所として、学校の空き教室や体育館などを活用する考えは。

答弁 各学校では、放課後や土曜日等に各教室を利用して学力アップ大作戦を展開している。また、長期休みの際にも、同様の取り組みを行うとともに、図書室の開放やプール指導等を行っている。学校施設の活用の拡大については、指導体

いても、聴覚障害者からの相談等にスムーズに対応できるため、総合相談窓口としての機能強化が図れる。



制や安全確保に留意しながら研究したい。



質問 医療的ケア児のため、幼稚園などに看護師の配置が必要と思うが、本市の現状や安全確保に留意しながら研究したい。



新型コロナウイルス対策

林 恒徳
(市民クラブ)

質問 本市は、他市に比べて新型コロナウイルスの感染者数を抑制できていると考えるが、1年を通して本市が行ってきた取り組みは。

答弁 本市では、新型コロナウイルス感染症の対策として、発熱者専用のコンテナ型CT室の導入支援、コロナ患者専用病床の増床に対する支援、高齢者へのマスクの配布など、さまざまな事業を実施してきた。

特に、本市独自の考えから、PCR検査を患者の濃厚接触者以外にも幅広く実

施したことで、集団感染が抑制できたと認識している。昨年9月には、国が検査対象を濃厚接触者以外にも広げるよう通知するなど、本市が先駆けて実施した拡大検査は、他の自治体でも取り入れられている。

さらに、気を緩めると再び感染が拡大する恐れがあることから、2月に改めてマスクを配布した。

今後も感染防止対策を推進して感染者の発生の抑制に努めている。



コロナ禍における女性支援 新型コロナウイルスのワクチン接種

三島 久美子
(無所属)

質問 コロナ禍における女性応援サイトを市のホームページに開設する考えは。

答弁 新型コロナウイルスの感染拡大は、DVの増加や健康面の不調など、女性への影響があると認識している。市ホームページの新型コロナウイルスに関する特設サイトでは、男女を問わず支援情報を提供している。現時点では女性応援サイトの設置の考えはないが、悩んでいる女性を誰一人取り残さないことを基本に、今後も相談者に寄り添った支援に努めたい。

質問 DV被害で避難している人に対するワクチン接種券の発行方法は。

答弁 新型コロナウイルスワクチンは、住民票のある市町村で接種することが原則だが、一定の要件を満たす場合は住所外での接種が可能である。DV避難者については、現在居住している市町村に申請し、接種券の発行を受けることができる。手続き方法については、広報高崎やホームページ等で周知していく。



都市計画道路の整備状況 学校支援員の現状

根岸 赴夫
(新風会)

質問 都市計画道路の南八幡京ヶ島線の整備状況は。

答弁 南八幡京ヶ島線は、主要地方道寺尾藤岡線の根小屋町交差点を起点とし、京目町の前橋市境に至る総延長7870メートルの都市計画道路である。現在、根小屋町交差点から一本松橋までと、倉賀野町の上町西交差点から前橋市境まで

の区間、約6770メートルで整備が完了している。引き続き、周辺道路の整備に伴う交通状況の変化を注視するとともに、未整備の都市計画道路の整備効果や優先順位などを研究したい。

質問 子どもの学校生活を支える学校支援員の処遇は。

答弁 学校支援員は、特別な配慮が必要な児童・生徒



一人一人に行き届いた学習指導



子ども時代にふさわしい教育環境 子どもの国保税均等割軽減

依田 好明
(日本共産党)

質問 県から少人数学級について新しい方針が出されたが、本市独自にさらに推進する考えは。

答弁 令和3年度から小学校5・6年生と中学校2・3年生も35人学級となる。本市では、独自に全ての小学校に教科指導助手を配置し、きめ細かな指導の充実にも努めており、令和3年度も引き続き配置していく。

質問 国民健康保険に加入

している18歳未満の子どもと未就学児の人数は。また、それぞれの国保税均等割の総額と国保税収入に占める割合は。

答弁 令和2年度には、時給が855円から865円となり、距離に応じた通勤手当も支給されることになった。



また、18歳未満の子どもの均等割の総額と国保税収入に占める割合は、本算定時の調定額で見ると、約1億5800万円で見ると、約2・1%、未就学児ではそれぞれ約4300万円、約0・6%となっている。



GIGASCHOOL構想 生活困窮者支援

中島 輝男
(市民クラブ)

質問 本市の3人のICT支援員の業務内容は。また、GIGASCHOOL構想における支援員の活用方法は。

答弁 ICT支援員は、学校のホームページを作成するなどの校務支援と、子どもたちの情報活用能力の育成のために基本的なパソコン操作をサポートするなど、授業支援を行っている。

支援員の活用については、タブレット端末の学校での活用状況を見極めながら、支援員の業務量に留意し、学校とも連携して効率的か

つ効果的に進めたい。

質問 新型コロナウイルスの影響を受け、生活困窮者の相談件数や経済的支援の状況は。

答弁 生活困窮者の相談件数は、令和元年度が485件、2年度が1月末時点で1664件と増加している。社会福祉協議会が行う緊急小口資金と総合支援資金の特例貸付には、約20億円の申請があり、多くの人に活用された。また、ハローワークと連携した就労支援なども実施している。



クビアカツヤカミキリ

特定外来生物に指定されている昆虫。サクラやウメなどに寄生し、幼虫が木の中を食い荒らす。

医療的ケア児

日常生活を送る上で医療的ケアと医療機器を必要とする子どものこと。ケアには、人工呼吸器の装着やたんの吸引などがある。